

# Multi-Relational Multi-Party Chat Corpus: 話者間の関係性に着目したマルチパーティ雑談対話コーパス

津田太郎<sup>1</sup> 山下紗苗<sup>1</sup> 井上昂治<sup>2</sup> 河原達也<sup>2</sup> 東中竜一郎<sup>1</sup>

<sup>1</sup>名古屋大学大学院情報学研究科 <sup>2</sup>京都大学大学院情報学研究科

{tsuda.taro.d7.mail., yamashita.sanae.w7@es.mail., higashinaka@i.}nagoya-u.ac.jp  
{inoue.koji.3x@, kawahara@i.}kyoto-u.ac.jp

## 概要

近年の対話システムの飛躍的な発展にもかかわらず、3人以上のマルチパーティ対話に対応した対話システムは少ない。そこで、我々は、そのような対話システムを実現するための対話リソースとして、マルチパーティ対話コーパス Multi-Relational Multi-Party Chat Corpus (MRMP) を構築した。本コーパスは初対面の話者のみからなる初対面对話と家族関係の話者と初対面の話者からなる家族入り対話の2種類の対話を含む。本稿では、構築したコーパスを用いた分析により、話者間の関係性が対話に与える影響を明らかにする。

## 1 はじめに

近年、高性能な対話システムが開発されている [1, 2, 3]。これらの対話システムは、現状では、単独のユーザと対話システムによる2人の対話が主流であるが、現実では、3人以上が参加する対話も少なくない。これからの対話システムの社会での利活用を鑑みれば、マルチパーティ対話に対応できる対話システムを実現する必要がある。しかしながら、そのような対話システムを実現するための対話リソースは少ない。

そこで、本研究では、マルチパーティ対話コーパス Multi-Relational Multi-Party Chat Corpus (MRMP) を構築する。本コーパスでは、3人以上のマルチパーティ対話に重要となる要素として、話者間の関係性に着目する。具体的には、話者間の関係性を「初対面」と「家族」に定め、これらの関係性を持つ話者を対話に含める。データとして、初対面3人による対話（初対面对話と呼ぶ）と家族2人と初対面1人による対話（家族入り対話と呼ぶ）の2種類を収集する。本稿では、構築したコーパスの分析により、

話者間の関係性が対話に与える影響を明らかにする。本研究で得られた知見は以下の通りである。

- マルチパーティ対話では、自分と同じ関係性の話者がいる対話において、その話者の満足度が高まる。
- 人間が対話から話者間の関係性を予測するとき、初対面の関係は60%程度の正解率で予測できるが、家族の関係は25%程度の正解率でしか予測できない。
- 初対面对話では、積極的に同意や共感をすることで関係性を構築しようとする一方、家族入り対話では、単独話者から家族話者に質問する。

本コーパスは整備の上、公開を予定している。

## 2 関連研究

現状で利用可能なマルチパーティ対話コーパスには、日常対話 [4, 5]、会議対話 [7, 8]、ラジオやテレビの対話 [9, 10, 11, 12]、テキストチャット [13] を対象としたものがある。しかし、これらのコーパスは話者間の関係性が不明なことも多く、特定の関係性を持つ話者のデータを十分含むわけではない。本研究では、話者間の関係性を初対面または家族に統制してマルチパーティ対話コーパスを構築する。

マルチパーティ対話における話者間の関係性を調査した研究として、高梨ら [14] は友人と初対面による対話を、坪倉ら [15] は対話ロボットと親子による対話を収集している。これらの研究は主として会話分析が目的である。本研究は多数の対話を収集し、データ駆動型の研究を志向している点が異なる。

## 3 Multi-Relational Multi-Party Chat Corpus

Multi-Relational Multi-Party Chat Corpus (MRMP) の構築は、話者の募集、事前アンケートの実施、対話

**表 1** Multi-Relational Multi-Party Chat Corpus および CEJC [4, 5] の基本統計量。CEJC は 3 人以上の対話を対象に集計し、発話のカウントには長単位 [6] を用いた。

	Multi-Relational Multi-Party Chat Corpus		CEJC
	初対面对話	家族入り対話	
対話数	500 対話	500 対話	297 対話
話者数	40 人	26 人 (家族 6 組 12 人, 初対面 14 人)	677 人
対話あたりの発話数	104.7 発話 (100 ~ 168 発話)	105.0 発話 (100 ~ 152 発話)	1221.8 発話
総発話数	52,367 発話	52,494 発話	362,888 発話
発話あたりの文字数	10.8 文字 (1 ~ 53 文字)	12.3 文字 (1 ~ 62 文字)	6.7 文字
語彙数	12,295 単語	13,885 単語	44,069 単語
総単語数	329,406 単語	372,399 単語	1,264,683 単語
タイプ・トークン比	0.037	0.037	0.034

の収集, 事後アンケートの実施, の順に実施した。本節では, それぞれのステップの詳細を述べるとともに, 得られたデータの統計情報について述べる。コーパスの収集にあたっては, 名古屋大学において, 収集手順やデータの保管方法等, 倫理面についての審査を経ている。

### 3.1 話者の募集

我々は, クラウドソーシングを通じて 66 人の話者を募った。話者は単独もしくは 2 人 1 組で参加した。後者の場合, 2 人の関係は二親等までの家族とした。男女比は 2 : 8, 年齢は 20, 30, 40 代がそれぞれ 2 ~ 3 割程度であった。

### 3.2 事前アンケートの実施

対話データの収集に先んじて, 話者は, 自身の性格特性, 話者の属性, および, テキストチャットの経験に関する事前アンケートに回答した。また, ペルソナとして, 話者自身を表す簡潔な文を 10 文作成させた。事前アンケートの項目とペルソナの詳細は先行研究 [16, 17] に準ずる。

### 3.3 対話の収集

話者は 3 人組となり, テキストチャットを行った。対話には, 話者の関係性によって, 初対面对話と家族入り対話の 2 種類を設けた。初対面对話は, 3 人全員が初対面という組み合わせで実施した (初対面話者と呼ぶ)。家族入り対話は, 2 人 1 組の家族 (家族話者と呼ぶ) と単独 1 人 (単独話者と呼ぶ) の組み合わせで実施した。単独話者は家族のいずれの話者とも初対面であるものとした。

対話では, 1 対話あたり 100 発話以上, 1 発話あたり 50 文字以内を目安として, 話者はターンを決め

ずに自由なタイミングで発話した。話者には固有のハンドルネームを与え, 特定の話者に対して発話を行う場合は, テキストチャットツールのメンション機能 (@[ハンドルネーム] の形式) を用いた。話者の組み合わせが偏らないように, 話者は同じ組み合わせで 10 回以上対話できないものとした。また, 1 人の話者は 50 回以上対話できないものとした。対話の話題は自由とした。

各対話が終了した後, 話者は対話後アンケートにおいて, 相手発話の情報量, 相手発話の理解度, 相手の親しみやすさ, 自身の興味の度合い, 自身の積極性, 自身の満足度をそれぞれ 5 段階で主観で評価した。

### 3.4 事後アンケートの実施

各話者は, 自身のすべての対話が完了した後, 印象に残った対話を自由記述で回答した。

### 3.5 統計情報

表 1 に, MRMP の基本統計量を示す。比較のために, 既存のマルチパーティ対話コーパスである日本語日常会話コーパス (CEJC) [4, 5] の統計量も示す。なお, CEJC は音声対話であり, MRMP はテキストチャットであることに注意されたい。

我々が構築した MRMP は, 500 件の初対面对話と 500 件の家族入り対話からなる。初対面对話では 40 人, 家族入り対話では 12 人 (6 組) の家族と初対面の 14 人が対話に参加した。対話あたりの発話数は, 初対面对話と家族入り対話の間に差はない。発話あたりの文字数は平均 10 文字台であることから, 短い発話が多かったことがうかがえる。タイプ・トークン比はどちらの対話も CEJC と同程度であり, 様々な語彙が用いられたことが分かる。

**表 2** 対話後アンケートの結果 (5段階評価). \*\*と\*は、初対面对話と家族入り対話の平均の間に、それぞれ1%と5%の水準で有意差が見られたことを示す. †† は、家族入り対話の単独話者と家族話者の間に1%の水準で有意差が見られたことを示す (どちらも Mann-Whitney の U 検定を実施). 太字は各行の最も大きい値を示す. 家族入り話者の平均は、単独話者と家族話者の平均を示す.

	初対面对話	家族入り対話		
	初対面話者	平均	単独話者	家族話者
情報量	<b>4.50**</b>	4.37	4.23	4.45††
理解度	<b>4.67**</b>	4.49	4.37	4.54††
親しみやすさ	<b>4.56**</b>	4.51	4.43	4.55††
興味	4.44*	4.42	4.17	<b>4.54††</b>
積極性	4.44	4.45	4.26	<b>4.54††</b>
満足度	4.47	4.46	4.26	<b>4.56††</b>

## 4 初対面对話と家族入り対話の比較

初対面对話と家族入り対話を比較することで、それぞれの特徴を明らかにする. 具体的には、対話後アンケートの結果、話者の関係性の予測しやすさ、対話の種類に特有の表現について比較した.

### 4.1 対話後アンケートの結果

表 2 に、対話後アンケートの結果を示す. どの項目も平均して5段階中4以上の高い評価であるものの、初対面对話は家族入り対話の平均と比べて評価が高い傾向にあった. Mann-Whitney の U 検定を実施したところ、これらの種類の対話の間には、情報量、理解度、親しみやすさは1%、興味は5%の水準で有意差が見られた. 家族入り対話の単独話者と家族話者を比較したところ、単独話者の評価は低く、家族話者の評価は初対面对話と同程度に高かった. 同検定を実施したところ、両者の間には、全ての項目において1%の水準で有意差が見られた. 単独話者は、他の2人の話者が家族であるため、疎外感を感じた結果、評価が低くなったと考えられる.

この結果から、初対面对話における初対面話者や、家族入り対話における家族話者のように、自分と同じ関係性の話者がいる対話は評価が高い傾向があると言える. これは、類似性の魅力 [18] や内集団バイアスによる可能性がある.

### 4.2 話者の関係性の予測しやすさ

話者間の関係性が発話内容にどの程度表れているのかを明らかにするため、マルチパーティ対話における話者間の関係性を「初対面」「知り合い」「家族」の3つのカテゴリから予測するタスクを設計し、そ

の予測のしやすさを評価した. 「知り合い」の選択肢を設けた理由は、初対面と家族の間にある関係性を考慮するためである. 各対話の1~33発話目、34~66発話目、67~99発話目をそれぞれ序盤、中盤、終盤として3分割し、対話参加者3人から2人を選ぶすべての組み合わせについて、その関係性を人間に予測させ、予測の理由も記述させた. 対象となったデータは無作為に抽出された初対面对話50件と家族入り対話50件であり、各対話の序盤、中盤、終盤に対し、計50名のクラウドワーカー<sup>1)</sup>が作業を実施した.

図 1 に、関係性の予測結果を示す. 全体として、初対面の関係性は約60%の正解率で予測され、家族の関係性は約25%の正解率で予測された. 選択肢が3つあるため、ベースラインの正解率は33%であると考えられるが、この結果から、初対面の関係性は比較的予測しやすく、家族の関係性は予測しにくいことが示された. 家族の関係性が知り合いと予測された対話について、ワーカーがそのように予測した理由を確認したところ、家族と確信できる明確な特徴が不足している場合に、知り合いと判断されるケースが多いことが分かった.

さらに、初対面对話 (図 1 (a) 参照) について、対話の進行に伴う予測の変化を分析すると、序盤は最も正解率が高いが、中盤から終盤にかけて知り合いであると予測されるケースが増加した. これは、序盤では「今日はいい天気ですね」や「私は〇〇に住んでいます」といった初対面特有の表現が多く見られ、初対面の関係性を予測する手がかりとなっていたと考えられる. しかし、中盤から終盤にかけてはこれらの表現が減少し、特定の話題で対話する場面に移行するため、初対面の特徴が薄れ、知り合いであると予測されるケースが増加したと考えられる.

一方で、単独話者と家族話者の関係性の予測 (図 1 (b) 参照) では、中盤に初対面の予測が増え、終盤には家族と予測されるケースが出現した. 中盤に初対面の予測が増えた理由は、さらなる分析が必要であるが、終盤については、家族と予測したワーカーによれば、「対話の話題についての認識が共通しており、一緒に体験したことがあるかのような話し方をしているから」という趣旨の理由が複数あり、対話が進むにつれて共通の話題を発見し、距離が縮まっていることが示唆される. また、家族話者同士の関係性の予測 (図 1 (c) 参照) では、序盤から終盤

1) <https://crowdworks.jp/>

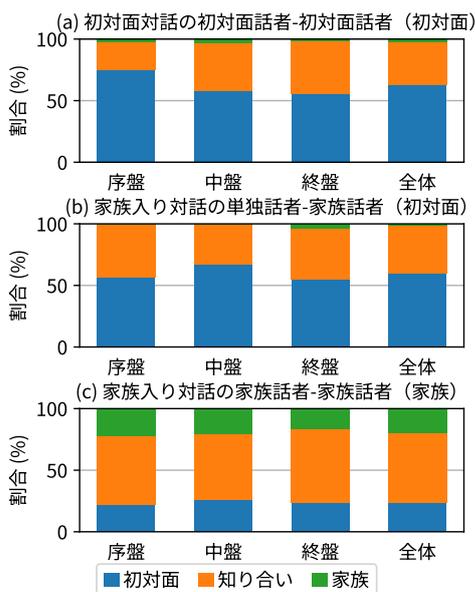


図1 話者の関係性の予測結果. 上から, 初対面対話の初対面話者同士, 家族入り対話の単独話者と家族話者, 家族入り対話の家族話者同士の関係性に対する予測結果を示す.

まで予測のされ方に大きな変化はなく, 終始一貫して家族特有の特徴が維持されていたと考えられる.

### 4.3 対話の種類に特有の表現

本節では, 初対面対話と家族入り対話における特有の表現を, 頻出表現および人間による関係性の判断根拠の観点から調査した結果について述べる.

#### 4.3.1 頻出表現による分析

形態素解析器 MeCab<sup>2)</sup>[19] と辞書 IPAdic を用いて発話中に出現する 4-gram のパターンを抽出し, 対話全体での出現回数が上位 100 個の 4-gram の中から, 初対面対話と家族入り対話で出現頻度が有意に異なる 4-gram を特定し, 比較した. また, 家族入り対話については, 家族入り対話全体での出現回数が上位 100 個の 4-gram の中から, 単独話者の発話と家族話者の発話で出現頻度が有意に異なる 4-gram を特定し, 比較した. 有意差の評価には比率の差の検定 (Z 検定) を用いた.

その結果, 初対面対話では, 「よろしくお願ひします」のような挨拶や, 「～ですよ」 「～なんです」のような同意, 共感の表現が多く見られた. 家族入り対話では, 「そーそー」「ね!!!」「・・・!」のようなインフォーマルな表現が多く見られた. こ

れらは話者同士の距離感の近さを示唆している. 単独話者の発話に注目すると, 「てますか?」「ありますか?」など, 質問に関する表現が多く見られ, 単独話者が家族話者の情報を尋ねる発話が多いと考えられる. 家族話者の発話では, 「○○(あだ名)さんは～」という, 愛称を含む表現が見られ, 家族間の距離の近さがうかがえる. 実際の対話例は付録の表 3 および表 4 を参照されたい.

#### 4.3.2 人間による関係性の判断根拠の分析

クラウドワークに, 対話の参加者の関係性と, 対話履歴の一部を提示して, 話者間の関係性を示す表現と, それの関係性を示していると判断した理由を回答させた. 4.2 節のタスクと同様, 対話を序盤, 中盤, 終盤の 3 つに分け, 1 つの対話履歴につき, 3 つの表現および理由を収集した. 初対面対話 10 件と家族入り対話 10 件を対象に, 計 10 名のクラウドワークが作業を実施し, 初対面対話, 家族入り対話それぞれ 90 個の表現および理由を収集した.

結果として, 初対面対話では, 職業や住んでいる地域など, 基本的な情報を知らないことや, 口調が丁寧なこと, 対話があまり深堀りされず盛り上がり欠けることが, 初対面であることを示す根拠として挙げられた. 一方で, 家族入り対話では, 家族話者の, 単独話者ともう一方の家族話者に対する口調の違いに着目した回答が見られたほか, 家族話者に着目した回答として, 「(子供のころに) ホッケーやらせたかった」という親子の年月を感じさせるやり取りを根拠とした回答や, 「すごいですね!」と家族 2 人が同時に全く同じ反応をするところに家族の繋がりが感じ取れるという回答が見られ, 様々な家族特有のやり取りから, その関係性を感じることができることが分かった.

## 5 おわりに

本研究では, マルチパーティ対話に対応した対話システムの実現のため, 話者間の関係性に着目したマルチパーティ対話コーパス Multi-Relational Multi-Party Chat Corpus (MRMP) を構築した. 今後の課題として, まず, 本コーパスと, 今回得られた知見を用いて, マルチパーティ対話システムを構築したい. また, 本コーパスが扱う関係性は, 初対面と家族関係に限られる. 知り合い同士の対話も集めることで, 更なる知見を得たいと考えている.

2) <https://taku910.github.io/mecab/>

## 謝辞

本研究は、JST ムーンショット型研究開発事業、JPMJMS2011 の支援を受けたものである。

## 参考文献

- [1] Tom Brown, Benjamin Mann, Nick Ryder, Melanie Subbiah, Jared D Kaplan, Prafulla Dhariwal, Arvind Neelakantan, Pranav Shyam, Girish Sastry, Amanda Askell, Sandhini Agarwal, Ariel Herbert-Voss, Gretchen Krueger, Tom Henighan, Rewon Child, Aditya Ramesh, Daniel Ziegler, Jeffrey Wu, Clemens Winter, Chris Hesse, Mark Chen, Eric Sigler, Mateusz Litwin, Scott Gray, Benjamin Chess, Jack Clark, Christopher Berner, Sam McCandlish, Alec Radford, Ilya Sutskever, and Dario Amodei. Language models are few-shot learners. In **Proceedings of Advances in Neural Information Processing Systems**, Vol. 33, pp. 1877–1901, 2020.
- [2] Kurt Shuster, Jing Xu, Mojtaba Komeili, Da Ju, Eric Michael Smith, Stephen Roller, Megan Ung, Moya Chen, Kushal Arora, Joshua Lane, et al. Blenderbot 3: A deployed conversational agent that continually learns to responsibly engage. **arXiv preprint arXiv:2208.03188**, 2022.
- [3] OpenAI. GPT-4 technical report. **arXiv preprint arXiv:2303.08774**, 2023.
- [4] Hanae Koiso, Haruka Amatani, Yasuharu Den, Yuriko Iseki, Yuichi Ishimoto, Wakako Kashino, Yoshiko Kawabata, Ken'ya Nishikawa, Yayoi Tanaka, Yasuyuki Usuda, and Yuka Watanabe. Design and evaluation of the corpus of everyday Japanese conversation. In **Proceedings of the Thirteenth Language Resources and Evaluation Conference**, pp. 5587–5594, 2022.
- [5] 小磯花絵, 天谷晴香, 石本祐一, 居關友里子, 白田泰如, 柏野和佳子, 川端良子, 田中弥生, 伝康晴, 西川賢哉, 渡邊友香. 『日本語日常会話コーパス』の設計と特徴. 言語処理学会第 28 回年次大会発表論文集, pp. 2008–2012, 2022.
- [6] Yasuharu Den, Hanae Koiso, Takehiko Maruyama, Kikuo Maekawa, Katsuya Takahashi, Mika Enomoto, and Nao Yoshida. Two-level annotation of utterance-units in Japanese dialogs: An empirically emerged scheme. In **Proceedings of the Seventh International Conference on Language Resources and Evaluation**, pp. 2103–2110, 2010.
- [7] Jean Carletta, Simone Ashby, Sebastien Bourban, Mike Flynn, Mael Guillemot, Thomas Hain, Jaroslav Kadlec, Vasilis Karaiskos, Wessel Kraaij, Melissa Kronenthal, et al. The AMI meeting corpus: A pre-announcement. In **International workshop on machine learning for multimodal interaction**, pp. 28–39, 2005.
- [8] Adam Janin, Don Baron, Jane Edwards, Dan Ellis, David Gelbart, Nelson Morgan, Barbara Peskin, Thilo Pfau, Elizabeth Shriberg, Andreas Stolcke, et al. The ICSI meeting corpus. In **2003 IEEE International Conference on Acoustics, Speech, and Signal Processing, 2003. Proceedings.**, Vol. 1, pp. I–I, 2003.
- [9] Chenguang Zhu, Yang Liu, Jie Mei, and Michael Zeng. MediaSum: A large-scale media interview dataset for dialogue summarization. In **Proceedings of the 2021 Conference of the North American Chapter of the Association for Computational Linguistics: Human Language Technologies**, pp. 5927–5934, 2021.
- [10] Chao-Chun Hsu, Sheng-Yeh Chen, Chuan-Chun Kuo, Ting-Hao Huang, and Lun-Wei Ku. EmotionLines: An emotion corpus of multi-party conversations. In **Proceedings of the Eleventh International Conference on Language Resources and Evaluation**, 2018.
- [11] Soujanya Poria, Devamanyu Hazarika, Navonil Majumder, Gautam Naik, Erik Cambria, and Rada Mihalcea. MELD: A multimodal multi-party dataset for emotion recognition in conversations. In **Proceedings of the 57th Annual Meeting of the Association for Computational Linguistics**, pp. 527–536, 2019.
- [12] Yi-Ting Chen, Hen-Hsen Huang, and Hsin-Hsi Chen. MPDD: A multi-party dialogue dataset for analysis of emotions and interpersonal relationships. In **Proceedings of the Twelfth Language Resources and Evaluation Conference**, pp. 610–614, 2020.
- [13] Ryan Lowe, Nissan Pow, Iulian Serban, and Joelle Pineau. The Ubuntu dialogue corpus: A large dataset for research in unstructured multi-turn dialogue systems. In **Proceedings of the 16th Annual Meeting of the Special Interest Group on Discourse and Dialogue**, pp. 285–294, 2015.
- [14] 高梨克也, 井佐原均. 三者会話データの収録方法及び分析枠組の概要. 言語処理学会第 8 回年次大会発表論文集, pp. 116–119, 2002.
- [15] 坪倉和哉, 加藤里奈, 小林邦和. 多人数対話ロボットの検証実験—ロボットと対話中の親子間会話の分析—. 人工知能学会第二種研究会資料 第 60 回 AI チャレンジ研究会 Challenge-060, 第 2022 巻, pp. 01–06, 2022.
- [16] Sanae Yamashita, Koji Inoue, Ao Guo, Shota Mochizuki, Tatsuya Kawahara, and Ryuichiro Higashinaka. RealPersonaChat: A realistic persona chat corpus with interlocutors' own personalities. In **Proceedings of the 37th Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation**, pp. 852–861, 2023.
- [17] 山下紗苗, 井上昂治, 郭傲, 望月翔太, 河原達也, 東中竜一郎. RealPersonaChat: 話者本人のペルソナと性格特性を含んだ雑談対話コーパス. 言語処理学会第 30 回年次大会発表論文集, pp. 2738–2743, 2024.
- [18] Donn Byrne and Don Nelson. Attraction as a linear function of proportion of positive reinforcements. **Journal of personality and social psychology**, Vol. 1, No. 6, pp. 659–663, 1965.
- [19] Taku Kudo, Kaoru Yamamoto, and Yuji Matsumoto. Applying conditional random fields to Japanese morphological analysis. In **Proceedings of the 2004 Conference on Empirical Methods in Natural Language Processing**, pp. 230–237, 2004.

## A 付録

表3 初対面対話の例.

こまつなの属性	
性別: 女性, 年齢: 50 ~ 59 歳, 教育歴: 4 年制大学, 就労状況: 働いている, 居住地域: 神奈川県	
うどんの属性	
性別: 女性, 年齢: 20 ~ 29 歳, 教育歴: 4 年制大学, 就労状況: 働いている, 居住地域: 愛知県	
ねぎとろの属性	
性別: 女性, 年齢: 50 ~ 59 歳, 教育歴: 2 年制大学, 就労状況: 働いている, 居住地域: 熊本県	
対話	
こまつな:	こんにちは
うどん:	こんにちは!
ねぎとろ:	おはようございます。
うどん:	寒いですね
ねぎとろ:	寒いです
こまつな:	まだまだ寒いですね
うどん:	お天気はどうですか?
ねぎとろ:	晴れています
こまつな:	いい天気です
うどん:	雲ひとつない空です
ねぎとろ:	こちらでもです
うどん:	朝はお忙しくなかったですか?
ねぎとろ:	緊張して早く起きました。
こまつな:	朝苦手なんです
ねぎとろ:	わたしも朝苦手です。
うどん:	緊張しますよね
うどん:	同じくです
ねぎとろ:	はは
うどん:	お話できてうれしいです
ねぎとろ:	こちらこそです!
こまつな:	よろしくです
うどん:	朝ごはんは食べましたか?
ねぎとろ:	うどんさんは桜が咲いていますね。
こまつな:	花見したいです
うどん:	そうなんです
うどん:	近所にきれいなところがあって
ねぎとろ:	お花見待ち遠しいですね。
こまつな:	いいですね
うどん:	春が楽しみです
ねぎとろ:	あと一ヶ月半くらいですかね。
こまつな:	春早く来てほしいです
ねぎとろ:	本当に
こまつな:	寒いのも苦手なんです
うどん:	みなさんは、お花見ご家族と行かれるんですか?
こまつな:	一人でぶらっと
ねぎとろ:	最近行っていないです。
こまつな:	宴会とかはないですね
ねぎとろ:	わたしもです。
こまつな:	子どもといってもね
うどん:	宴会だと大掛かりですもんね
うどん:	お散歩みたいに行けたらいいですよ
ねぎとろ:	そうですね
	(略)

表4 家族入り対話の例.

うさぎの属性	
性別: 女性, 年齢: 50 ~ 59 歳, 教育歴: 4 年制大学, 就労状況: 働いている, 居住地域: 神奈川県	
えのきの属性 (家族話者で、てばさきの母)	
性別: 女性, 年齢: 40 ~ 49 歳, 教育歴: 2 年制大学, 就労状況: 働いている, 居住地域: 埼玉県	
てばさきの属性 (家族話者で、えのきの娘)	
性別: 女性, 年齢: ~ 19 歳, 教育歴: 高校卒業, 就労状況: 学生, 居住地域: 埼玉県	
対話	
うさぎ:	こんにちは
えのき:	こんにちは
てばさき:	こんにちは!
うさぎ:	春、旅行とか行かれますか?
えのき:	旅行は、行かないですね行きたいんですけど・・・
てばさき:	冬には京都行きました
うさぎ:	すてきー
えのき:	いいなー
てばさき:	研修旅行ですが
えのき:	楽しかった?
うさぎ:	昔、関西に住んでました
てばさき:	楽しかった!
うさぎ:	研修?
えのき:	大学の授業の一環です
てばさき:	大学の授業として行きました
うさぎ:	おーそんな時代なんですね
えのき:	何を勉強してきたの?
てばさき:	て、寺とか神社とか源氏物語とか...
えのき:	ふわっとしてる
うさぎ:	大河ドラマ面白いですよ!
てばさき:	ちゃんとレポートにはできたもん
うさぎ:	ああいう感じのことではなく?
えのき:	私は、お土産にしばい一ぬが欲しかったです
てばさき:	ああ、そういえば大河ドラマがああだとかは先生も言っていましたね
てばさき:	それは先に言って (略)
てばさき:	私が最後にまともに見たのは勇者ヨシヒコなので...
えのき:	吉田鋼太郎さん、もうそういうキャラ、みたくなくなってますよね
うさぎ:	不適切は、娘は変な時代って笑って終わり
うさぎ:	そうそう!
えのき:	てばさんはアニメしか見ないんじゃないの?
うさぎ:	どんなの見てます?
てばさき:	アニメを見る前に原作読んで満足してるところはあります
うさぎ:	読書家なんですよ
えのき:	最近どんな漫画読んだ?
てばさき:	読書
てばさき:	読書...?
	(略)